Ⅱ　出産施設における新生児保健指導の実態調査

研究第3部　松　島　富　之　助
青　木　美　江

緒　言

近年、施設分娩は90％をこえてきたが、分娩から退院までの期間は母親に対して、医師は助産婦の協力の下に①児の健康上の異常の有無を伝える。②母乳栄養の確立を目ざす。③家庭における養育一般についての知識を授けることが必要である。とくに第一子の出産に当ってはこの指導の良否が爾後の母親の養育態度に密接な関係を生ずるものであり、小児の健全育成の第一歩において正しい養育技術を身につけさせることが大切となる。

母親は、この方針にもとずき、乳児をよく観察し、養育一般の技術を習熟するのが望ましい。しかし、我が国の分娩施設を有する病院、産院などでは、医師や助産婦の量的不足や及び新生児期の保健指導態勢の不備のために、母親に対するこれらの指導が充分とはいえない場合が多いことは「産科並びに新生児病棟における看護管理に関する研究。(昭和43年度厚生科学研究費による)」の報告に明らかである。我々は、新生児期における児の状態を母親に熟知させ、家庭における児の適正養育を計るためには、新生児期にどのような指導態勢を作るのが望ましいかを研究するために各出産施設における指導の現状を母親のアンケートによって調査を行った。

調査方法

昭和46年２月１日より３月末日までの間に、愛育病院外来に健康相談を目的に来訪した２～３か月の乳児 207例（うち43例は愛育病院出生例）の母親につき、第１表の調査用紙を用いてアンケートを行った。

第１表　出産後0～2か月間の指導をよくするための調査

赤ちゃん，お誕生おめでとうございます。
しかし妊娠中から出生後を通じて、いろいろ御心配の点も多かったこととお察しいたします。私どもは、赤ちゃんがお生れになったあと、赤ちゃんとお母さんのために各々の施設においてどのような管理や指導がなされるのがよいかを研究調査しております。
御忙しいことと存じますが、この質問にお答えいただきたく、お願い申し上げます。

昭和46年２月　愛育病院　保健指導部

・赤ちゃんの氏名　生年月日　何番目のお子さんですか　住　所
（　　）（　　）（１　２　３　４）（　　）
・出産はどこでなさいましたか　施設名（　　）施設の場所（　　）
・妊娠中の指導はどこで　（　　）
・妊娠中は順調でしたか　{は　い / いいえ……どんな問題がありましたか}
内容（むくみ、蛋白尿、高血圧、その他（　　））
・出産は順調でしたか　{は　い / いいえ……どんな問題がありましたか}
内容（　　）
・入院中の赤ちゃんの経過は順調でしたか　{は　い / いいえ……どんな問題がありましたか / 内容（　　） / よく知らされなかった}
・　生下時体重　（　　）　・妊娠何週間目で生まれましたか（　　）

◎ その施設では

① 母子同室ですか （ずっと同室・ずっと別室・途中まで別室あと同室（　　日より同室））

② 生後の栄養は

1. 退院まで母乳で足りた { は い
　　いいえ……ミルクを何回与えましたか （　　）cc × （　　）回
退院後の栄養は　　（混合栄養 ・ 人工栄養）

2. 母乳で頑張るようにいわれた { は い……その指導の内容（　　）
　　いいえ

3. はじめて母乳を与えたのは生れて何時間目ですか （　　）
それまでに母乳以外に飲ませたものがある時はそれを記入して下さい。
（ ミルク ・ ブドウ糖水 ・ その他　　）（のませたが何を与えていたか分らぬ）

③Ⅰ その施設で新生児についての管理は
1. 小児科の先生が行った。
2. 産婦人科の先生が行った。
3. 助産婦が行った。
4. その他の人（看護婦・助手など）が行った。
5. 指導をうけた人の職名が分からぬ。

Ⅱ 指導をうけた場合は内容に○をつけて下さい。又（ ）内には誰が行ったか記入して下さい。
1. 入浴指導（　　）　2. 栄養指導（　　）
3. 生活全般の指導（　　）　4. そ の 他（　　）

Ⅲ その指導はどのように行われていましたか
1. 個別指導　2. 集団指導　3. テープなど放送で
4. そ の 他 （　　）

Ⅳ その指導にあたって、パンフレットなどをもらいましたか
1. もらった { パンフレットの大きさ （　　）　頁数 （　　）
　　パンフレットの名 （　　）　発行所（　　）
2. もらわない

Ⅴ その指導には満足しましたか （は い ・ いいえ）
その理由は （1. 実際に役立った　2. 実際の役に立たない　3. その他）

Ⅵ その指導のうち役に立ったものを記入して下さい。
（　　）

Ⅶ 退院したあと 1〜2 か月後までの間に、赤ちゃんのことで一番心配になったことは？
1）不安を感じた { 1. 栄養の問題 （　　）
　　2. 日常の世話の問題 （入浴 ・ きもの ・ 暖冷房など ）
　　3. その他 （母親の多忙・便・体のこと・泣きだしたとき・夜、昼とり違え、など）
2）不安を感じなかった　理由 { 1.
　　2.
　　3.

Ⅷ それをどのように解決しましたか
1. 出産の施設へ問いあわせた。
2. 育児書を読んだ。
3. 退院時指導を思い浮べた。
4. 肉親・姑などと相談して。
5. 母親学級の知識を応用して。
6. その他 （　　）

Ⅸ　保健所について

1.　赤ちゃんが退院したのち保健所か市町村の保健婦が家庭訪問してくれましたか

（　は　い　・　いいえ　）

2.　㋑　その時の指導の内容は　（　　）

㋺　その指導で満足しましたか

（満足した・満足しない……その理由　1.　　）
2.　　）
3.　　）

3.　保健所や市町村の保健婦の家庭訪問についての希望をおかき下さい。

①　強力に行ってほしい。

②　家庭訪問はどちらでもよい。

③　家庭訪問してほしくない。

④　その他　（　　）

4.　保健所のあり場所をごぞんじですか　（はい　・　いいえ）　保健所名を記入して下さい

（　　）

Ⅹ　施設にいる間の赤ちゃんの指導をおうけになってみて、どのようにあってほしいと思いましたか

1.　もっと具体的に　（パンフレット等を加えて、実技も入れるなど）

2.　時間をかけて

3.　指導方法は　㋑　1 対 1 の指導
㋺　集団的指導
㋩　放送に流す
㋥　そ　の　他

4.　その他　（具体的にいろいろかいて下さい。）

1.

2.

3.

調査成績

1.　調査対象の母親の利用した施設は第２表に示した。これを１～６の群に集約して各施設群間における保健指導の内容を検討した。

1）　国公立及びそれに準ずる病院　45

（国立病院２、公立病院５、国公立に準ずる病院24、その他の大病院８、大学附属病院６）

2）　産　院　2

3）　個人病院（個人経営でベッド数20以上）　18

4）　産科医院　52

5）　助産所　3　として、愛育病院は別個に扱った。

2.　調査対象児の背景

1）　出生順位：207例中第１子が136例（65.7%）と最も多く、第２子は53例（25.6%）とそれにつぎ、第３子は17例（8.2%）であり、第４子が１例（0.5%）にみられた。

2）　妊娠中の指導をうけた施設（第３表）

①　妊娠中に母親学級などにより妊娠中の care について指導をうけたものは、207例中161例（77.8%）と大半を占めているが、指導をうけなかったものが10例(4.8%）にみられた。

②　その指導は、出産した施設でうけたものが過半数（61.4%）であるが、他の施設でうけたものが34例(16.4%）にみられた点に注目すべきである。

松島らは団地の母子保健の調査で、東京都周辺の団地に於ては約1/3の妊婦が実家で出産していることをみているが、この際には、妊娠中の異常の有無についての記録を医師からもらって、分娩施設の医師へ提出することを義務づける必要がある。もちろんこの際には、母子健康手帳が利用されることが多いが、妊娠中に異常のある例では、これのみでは不充分であろう。他施設で指導をうけたものは、産科医院が最も多く、ついで大病院、個人病院の順であるが、個人病院や医院での頻度がとくに高いので、それらの施設での上記の妊娠経過の記録の励行が望まれよう。

第2表　調査対象の母親の利用した施設

	出産施設名		施設数	被調査者数
1	国公立及びそれに準ずる病院	国立金沢病院、国立東二病院、都立荏原病院、都立広尾病院、山口県立中央病院、東横病院、町田市立中央病院、市民病院、虎の門病院、三宿病院、大森赤十字病院、仙台赤十字病院、東京共済病院、済生会中央病院、東京逓信病院、関東逓信病院、伊豆逓信病院、田園調布総合中央病院、厚生中央病院、東京警察病院、相模原協同病院、名鉄病院、東京船員保険病院、警友病院、日本専売公社東京病院、関東労災病院、佼成病院、古河電工総合病院、同愛記念病院、中央鉄道病院、静岡日赤病院、荻窪病院、山王病院、古河橋病院、聖路加病院、鬼母神病院、東京衛生病院、住友病院、東京日立病院、順天堂大病院、慈恵医大病院、昭和医大病院、東大病院、慶応病院、東邦病院	45	75
2	産院	日赤渋谷産院、日赤新宿産院	2	9
3	個人病院	小原病院、田谷病院、幸仁病院、荘病院、久保内病院、浜田病院、森川病院、恩田病院、紀病院、伏島病院、岩倉病院、佐々木病院、坂病院、幸野病院、大竹病院、村山病院、名称不明 2	18	22
4	産科医院	藤森、磯村、上野毛、鈴木、井村、佐藤、亀田、千葉、米山、川添、大谷、浜野、天野、中川、イマダ、サイト、田畑、石塚、たに、近藤、原田、甲田、林、錦見、小林、安並、本間、長内、佐々木、斎藤、池田、石山、武田、半沢、高崎、河方、菱田、長内、富士見台、吉川、中井、安田、謝國権、神田第二クリニック、山口、日比、鈴木、小泉、乾、舟橋、近藤、大和の各産科医院	52	55
5	助産所	小沢助産所、松田助産所、名称不明 1	3	3
6	愛育病院	愛育病院	1	43
		計	121	207

第3表　妊娠中に指導をうけた施設

	出産施設	出産施設	他の施設	指導をうけない	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	48	11	2	14	75
2	産院	8	1	0	0	9
3	個人病院	11	5	0	6	22
4	産科医院	25	15	5	10	55
5	助産所	1	2	0	0	3
6	愛育病院	34	0	3	6	43
	計	127	34	10	36	207
	%	61.4	16.4	4.8	17.4	100.0

3) 妊娠中の母親の経過は、正常のものが207例中146例（70.5%）異常のあったものが60例（29.0%）であった。（不明1例）。

① 異常の内容は、明記したものは延94件であり、その中では、むくみ30例（31.9%）、蛋白尿26例（27.7%）が最も多く、ついで高血圧（血圧 140mm/Hg以上）が16例（17.7%）にみられた。その他は21例であり、その主なものは、切迫流産であった。

4) 分娩時の状態

① 分娩経過が正常のものは、207例中162例(78.3%)と異常のあったものは41例（19.8%）（不明4例1.9%）であった。

② 異常の内容は延50件であり、その中では陣痛微弱9件、前期破水7件、吸引分娩が6件で、この3つが約半数を占めている。その他のものでは、大量の出血3件、早産が3件にみられた。

5) 新生児の状態

① 新生児期を通して正常のものが207例中179例（86.5%）であり、異常は16例（7.7%）（不明12例、5.8%）にみられた。

② 異常の内容は延17件であり、その中では強度の黄疸7件（41.2%）が最も多く、その他には、体重増加不良及び低体重児が2件、嘔吐、貧血が各1件であった。

③ 出下時体重は、3500～3001gが46.4%と最も多く3000～2501gが26.1%：4000～3501gが17.4%である。2500以下は、7例（3.4%）4001g以上は4例（1.9%）

を占めている。

④ 在胎期間は、38～42週が70％で、37週以下は13例（6.3％）43週以上は5例（2.4％）（不明44例21.3％）であった。

3. 新生児期の管理調査

1) 新生児の状態を母親は知らされていたか（第4表）207例中195例（94.3％）とほとんどの例が知らされていたと答えたが、3例（1.4％）のは知らされていなかった。このことは新生児の異常の内容が、強い黄疸、貧血、低体重児などが主なので、奇型が0例で母親に知らしてはいけない内容は少いためと思われる。

2) 母子は同室か別室か？

母子の部屋についての調査は、第5表のようにである。即ち母親の答えによると母子別室が207例中119例

第4表 新生児の状態を母親は知らされていたか？

		知らされていた	知らされていない	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	72	1	2	75
2	産院	9	0	0	9
3	個人病院	20	2	0	22
4	産科医院	50	0	5	55
5	助産所	3	0	0	3
6	愛育病院	41	0	2	43
	計	195	3	9	207
	%	94.3	1.4	43	100.0

第5表 施設群と母子の同別室

		母親の答					施設別				
		別室	同室	途中から同室	不明	計	別室	同室	途中から同室	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	47	7	20	1	75	28	7	14	1	50
2	産院	2	0	7	0	9	2	0	1	0	3
3	個人病院	8	4	10	0	22	7	4	8	0	19
4	産科医院	19	15	21	0	55	18	14	21	0	53
5	助産所	0	0	3	0	3	0	0	3	0	3
6	愛育病院	43	0	0	0	43	1	0	0	0	1
	計	119	26	61	1	207	56	25	47	1	129
	%	57.5	12.5	29.5	0.5	100.0	43.4	19.4	36.4	0.8	100.0

第6表 入院中及び退院後の栄養

		新生児期の栄養			退院後の栄養（1か月）				計
		母乳	混合と人工	不明	母乳	混合	人工	不明	
1	国・公立、それに準ずる病院	11	62	2	12	31	24	8	75
2	産院	2	6	1	2	1	3	3	9
3	個人病院	3	18	1	3	8	8	3	22
4	産科医院	5	48	2	5	24	16	10	55
5	助産所	2	1	0	2	1	0	0	3
6	愛育病院	28	13	2	23	9	9	2	43
	計	51	148	8	47	74	60	26	207
	%	24.6	71.5	3.9	22.7	35.7	29.0	12.6	100.0

（57.5%）と過半数を占め、ついで「途中から同室」が61例（29.5%）同室26例（12.5%）の順である。

施設別にみると、別室が43.4%、途中から同室が36.4%、同室19.4%の順となっていた。

3）栄　養

①　入院中及び退院後の栄養

入院中及び退院後1か月の栄養方法を施設別にみると（第6表）、最も母乳栄養の%の高いのは愛育病院でありついで例数は少ないけれども助産所であるが、他の施設はみな極めて母乳栄養の%が低い点に注目せねばならない。とくに例数が多くても母乳栄養が低いものは産科医院と個人病院及び国公立とそれに準ずる病院である点は興味のある点である。

②　分娩施設別新生児栄養指導と母乳確立との関係

そこでこれら主要施設群の間に行われている新生児の母乳優先指導の有無と新生児の母乳確立との関係及びそれに及ぼす要因をまとめてみた（第7-1表）結果、極めて興味ある結果を得た。

第7-1表　分娩施設別新生児栄養指導と母乳確立との関係

（母親の調査　昭46.1-3月、愛育病院外来—松島）

	N	新生児期に母乳優先指導の有無 %			早期新生児期の栄養 %			退院後の栄養 %				新生児期における母子別室又は同室 %				授乳開始前の栄養 %				
		母乳優先	母乳優先でない	NA	母乳	母乳不足	NA	母乳	混合	人工	NA	別室	同室	途中から同室	不明	無記入	不明	何も与えぬ	与へた	ミルク
愛育病院	43	53.5	23.2	23.2	65.1	30.2	4.7	53.6	20.9	20.9	4.7	100	0	0	0	14.0	16.3	4.7	65.1	7.0
個人産科医院	55	34.5	50.9	14.5	9.1	87.3	3.6	9.1	43.6	29.1	18.2	34.5	27.3	28.0	0	5.5	27.3	3.6	63.6	52.7
大・国・公・私大病院	75	58.7	24.0	17.3	14.7	82.7	2.7	16.0	41.3	32.0	10.7	62.6	9.3	26.7	1.3	10.7	24.0	5.3	60.0	38.7
個人病院	22	50.0	40.9	9.1	13.6	81.8	4.6	13.6	36.4	36.4	13.6	36.4	18.2	45.4	0	0	31.8	0	68.2	45.4
計	195	49.7	33.3	16.9	24.1	72.3	3.6	22.1	36.9	29.2	11.8	60.0	13.3	26.3	0.5	8.7	24.1	4.1	63.1	36.4

a　新生児期に母乳優先指導の実態：個人産科医院のみが母乳優先指導をうけたものの数が少く（34.5%）他の施設群（愛育病院、大病院群、個人病院群）では、50.0～58.7%のが指導をうけている。

b　しかし、入院中、母乳確立ができたものは、愛育病院においては65.1%であるのに比し、他の施設群は、9.1～14.7%と著しく低い点が特徴的である。NAの比率は各施設群間に於ては、ほぼ同率であるのでこの数字は信頼されてよかろう。

c　退院後の栄養法は、ほぼ新生児期の比率を保っていた。

d　各施設群間における母子同室か別室かの問題は、この母乳確立と関係がみられなかった。

このことは第7—2表でも証明される。即ち解答のあった199例のうち別室群113例のうち母乳確立したのは38例（33.6%）に比べ、同室群25例では3例（12.0%）のみが、はじめは別室で途中から同室にした群60例では10例（16.7%）が母乳確立に成功しているので、一見別室群の方が指導確立頻度は高いようにみえる。

しかし、別室にしている愛育病院例を除去すると、各々の群の母乳確立頻度はほぼ同様となっている点からも理解されよう。

第7-2表　母乳の確立と母子の部屋

		全例			除愛育病院例		
		母乳確立	母乳不確立	計	母乳確立	母乳不確立	計
別室	N	38	75	113	10	62	72
	%	33.6	66.4	100.0	13.9	86.1	100.0
同室	N	3	22	25	3	22	25
	%	12.0	88.0	100.0	12.0	88.0	100.0
途中から同室	N	10	50	60	10	50	60
	%	16.7	83.3	100.0	16.7	83.3	100.0
不明	N	0	1	1	0	1	1
	%	—	—	—	—	—	—
計	N	51	148	199	23	135	158
	%	25.6	74.4	100.0	14.6	85.4	100.0

e　授乳開始前の栄養と各群間の母乳確立との間には

著しい関係がみられた。即ち、授乳開始前に、何かのみものを与えたと答えたものは、各群とも共通で60.0～68.2%であったが、ミルクを授乳開始前に与えたと答えたものは、個人産科医院群が52.7%と最も多く、ついで個人病院群の45.4%、大病院群の38.7%の順であり、愛育病院においては7.0%にすぎなかった。

しかも、新生児期の母乳の確立の%は上記の授乳開始前にミルクを与えた頻度と逆関係が成立しているのである。即ち、新生児期の母乳の確立を妨げ、それが引きつづいて、そのあとの時期の母乳栄養を妨げている最大の因子は、授乳開始前のミルク投与にあることが極めて明白となった。

この点について、更に整理してみると（第7－3表）

ⓐ 母乳が退院前に確立したものは、授乳前にブドー糖又は砂糖水を与えた群が最も高く(60%)、他の群では著しく低かった。ただ何も投与しなかったものの母乳確立%は低いが、例数が少いのではっきりしたことはいえなかった。

第7-3表　授乳開始前投与物の有無と母乳の確立

		全例			除愛育病院例		
		母乳	母乳不足	計	母乳	母乳不足	計
何も与えぬ	N	1	6	7	1	5	6
	%	14.3	85.7	100.0	16.7	83.3	100.0
ミルクを与えた	N	12	62	74	10	61	71
	%	16.2	83.8	100.0	14.1	85.9	100.0
ブドー糖又は砂糖水	N	18	12	30	6	6	12
	%	60.0	40.0	100.0	50.0	50.0	100.0
与えたもの不明	N	7	17	24	2	15	17
	%	29.2	70.8	100.0	11.8	88.2	100.0
不明	N	13	37	50	4	37	41
	%	26.0	74.0	100.0	9.8	90.2	100.0
計	N	51	134	185	23	124	147
	%	27.6	72.4	100.0	15.6	84.4	100.0

ⓑ 母乳確立%が最も低いものは、授乳開始前にミルクを投与した群であり16.2%にすぎなかった。

ⓒ 愛育病院例を除いたもので検討を行ったがやはり上記の傾向と同じ結果であった。しかも与えたもの不明群と与えたこと自体が不明の群に於ては全例調査の結果よりも愛育病院例を除いた統計において母乳確立%が激減していることは、この群の中にも高率にミルクを授乳開始前に投与していたのではないかと推察されよう。

③ 授乳開始時間（第8表）

各施設群間における出生後、授乳開始するまでに要した時間は第8表の如く、24時間以上が65.7%と最も多く、ついで18～24時間の8.7%が多かった。

第8表　授乳開始時間

		生後6時間以内	6～12時間	12～18時間	18～24時間	24時間以上	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	1	2	0	7	50	15	75
2	産院	0	0	0	0	7	2	9
3	個人病院	0	2	0	1	15	4	22
4	産科医院	0	0	1	3	40	11	55
5	助産所	0	0	0	0	3	0	3
6	愛育病院	0	0	1	7	21	14	43
	計	1	4	2	18	136	46	207
	%	0.5	1.9	1.0	8.7	65.7	22.2	100.0

かつて、早期授乳をとなえて、生後6～8時間で授乳を開始すると、生理的体重減少が少くてすむと考えた時代があったが最近では、この考え方は反省されて、小児と母親の身体的条件を考えて授乳を開始するようになってきた。それはおおよそ12時間以後のことが多いといわれている。しかし、24時間以後に授乳開始のものが過半数を占めているという事実は、第7表と併せ考えると、それまでに母親に知らされているか否かに拘らず、ミルクその他ののみものが与えられていると解釈してよいのではなかろうか？　この点に今後の指導の問題点が残っているように思われる。

④ 母乳優先指導の有無（第9－1表）

a　入院中に母乳優先指導をうけたと答えたものは、207例のうち105例（50.7%）、うけなかったものは66例（31.9%）である。

b　その指導は愛育病院、大病院群、産院、助産所群に最も多く、産科医院及び個人病院では少ない。

c　指導の内容は、乳房マッサージ、栄養指導が最も多く、その他のものは第9－1表のようである。

d　母乳優先指導と退院時母乳確立との関係記録の明らかな199例のうち、母乳優先指導をうけた102例では、母乳確立したものは30例であり、母乳優先指導のない群64例中9例（14.1%）に比べて明らかに多い。この傾向は愛育病院例を除いてみても同様の傾向をもっている。（第9－2表）

第9-1表　母乳優先指導をうけたか？

		うけた	うけない	不明	計	母乳優先指導の内容											
						乳房のマッサージ	注射	栄養指導	根気よく飲ませる	汁気の物を飲む	太陽灯照射	休養	乳房を交互に与える	乳房を空にする	その他	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	44	18	13	75	4	1	2	1	0	0	1	1	1	5	31	47
2	産院	5	1	3	9	2	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	7
3	個人病院	11	9	2	22	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	7
4	産科医院	19	28	8	55	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	14	20
5	助産所	3	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
6	愛育病院	23	10	10	43	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	18	23
計		105	66	36	207	13	2	7	3	1	1	1	2	1	8	68	107
%		50.7	31.9	17.4	100.0	12.1	1.9	6.5	2.8	0.9	0.9	0.9	1.9	0.9	7.5	63.7	100.0

第9-2表　母乳優先指導の有無と退院時母乳確立との関係

		全例			除愛育病院例		
		母乳	母乳不足	計	母乳	母乳不足	計
母乳優先指導⊕	N	30	72	102	13	68	81
	%	37.0	63.0	100.0	16.0	84.0	100.0
母乳優先指導⊖	N	9	55	64	5	49	54
	%	14.1	85.9	100.0	9.3	90.7	100.0
不明	N	12	21	33	5	18	23
	%	36.4	63.6	100.0	21.7	78.3	100.0
計	N	51	148	199	23	135	158
	%	25.6	74.4	100.0	14.6	85.4	100.0

即ち入院中の母乳優先指導をすすめることは、母乳確立に有効に働くものと思われる。

4）新生児期の保健指導

①　新生児期の指導の有無とその内容

愛育病院を除く他施設で出産した母親に対して、新生児期の指導の内容についてきいた。（第10表）

a）指導をうけたものは、164例（除愛育病院出産例）中141例（86.0%）と大半を占めていた。

（（うけていないものは、23例（14.0%））

b）指導をうけないものの頻度は、個人病院の22例中8例（36.4%）が最も多く、ついで産科医院55例中10例（18.2%）、産院9例中1例（11.1%）、大病院75例中4例（5.3）の順である。

個人病院や個人医院は多忙のために指導時間がないかもしれないが一般に出産前までに注意が向けられる傾向があるので、今後の指導態勢の確立の要があろう。

c）指導の内容（延270件数）：入浴の指導が115件（42.6%）と最も多く、ついで栄養指導78件（28.9%）、生活全般指導72件（26.6%）でこの3つの項がほとんどを占めている。

d）愛育病院における指導：新生児は小児科医が担当し、入院中に沐浴、栄養、生活指導すべてをパンフレットを用いて行っている。

②　新生児の管理の職責

愛育病院を除いた施設での出産例についての質問に対して164人（延253件）のうち（第11表）

a）産科医、助産婦及びその他の人がほぼ同数であり（24.8～26.2%）、小児科医は16.7%と少数である。

b）施設別にみると、新生児の管理者は産婦人科医と助産婦及びその他（看護婦 etc）が最も多く、この3者で78.6%を占め、小児科医が管理しているのは13.7%にすぎなかった。とくにこの傾向は産科医院、個人病院に

第10表　新生児期の保健指導とその内容

		指導をうけた	指導をうけない	不明	計	指導の内容 入浴指導	栄養指導	生活全般	その他	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	71	4	0	95	63	45	42	3	0	153
2	産院	8	1	0	9	7	7	7	0	0	21
3	個人病院	14	8	0	22	11	6	4	1	0	22
4	産科医院	45	10	0	55	31	19	17	0	1	68
5	助産所	3	0	0	3	3	1	2	0	0	6
6	愛育病院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	141	23	0	164	115	78	72	4	1	270
	%	86.0	14.0	0.0	100.0	42.6	28.9	26.6	1.5	0.4	100.0

第11表　新生児の管理者

		母親へのアンケートの答 小児科医	産婦人科医	助産婦	その他の人	指導者不明	不明	計	施設別 小児科医	産婦人科医	助産婦	その他の人	指導者不明	不明	計
1	国・公立及びそれに準ずる病院	25	22	24	21	7	3	102	17	18	19	18	7	3	82
2	産院	4	1	3	1	2	0	11	1	1	1	1	1	0	5
3	個人病院	4	9	5	5	0	2	25	4	8	4	5	0	2	23
4	産科医院	2	21	17	28	0	1	69	2	21	17	27	0	1	68
5	助産所	0	0	3	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	3
6	愛育病院	43	0	0	0	0	0	43	1	0	0	0	0	0	1
	計	78	53	52	55	9	6	253	25	48	44	51	8	6	182
	%	30.8	20.9	20.6	21.7	3.6	2.4	100.0	13.7	26.4	24.2	28.0	4.4	3.3	100.0
除愛育病院		35	53	52	55	9	6	210							
	%	16.7	25.2	24.8	26.2	4.2	2.8	100.0							

著しいのは当然のことであるが、総合病院である大病院に於ても小児科医が関与しているものが少い点（182か所中17か所、20.5%）に注目したい。

③　新生児指導の方法（第12—1表）

a）記入のあった148例中（除愛育病院）集団指導は86例（58.1%）と最も多く、ついで個別指導48例（32.4%）である。少数であるが、ビデオテープなどによる指導が行われていた。それらは大病院、産院においてのものが殆んどであった。

b）方法を施設別にみると、112施設中集団指導は55施設（49.1%）とやはり最も多いが、その頻度は母親の答えよりも少いのは、出産施設のダブリをとり去ったためである。ついで個別指導が46施設（41.1%）にみられた。

c）退院までの指導についての希望（第12—2表）をみると（98例中）

ⓐ　個人指導は67例（68.3%）と最も多く、ついで集団指導27例（27.6%）の順であるが、少数に放送に流す

第12-1表　指　導　方　法

		母親の答						施設別					
		個別指導	集団指導	ビデオテープなど放送で	その他	不明	計	個別指導	集団指導	ビデオテープなど放送で	その他	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	10	58	3	1	1	73	9	35	3	1	0	48
2	産院	1	8	3	0	0	12	1	2	1	0	0	4
3	個人病院	5	8	1	0	0	14	5	6	1	0	0	12
4	産科医院	29	12	1	1	3	46	28	12	1	1	3	45
5	助産所	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	3
6	愛育病院	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—
計		48	86	8	2	4	148	46	55	6	2	3	112
%		32.4	58.1	5.4	1.4	2.7	100.0	41.1	49.1	5.4	1.8	26	100.0

第12-2表　退院までの指導の希望

		指導方法					もっと具体的に	時間をかけて	その他	不明	計
		個人指導	集団指導	放送に流す	その他	計					
1	国・公立、それに準ずる病院	20	14	2	0	36	34	4	13	12	63
2	産院	5	2	0	0	7	1	1	2	2	6
3	個人病院	9	1	1	0	11	7	3	2	6	18
4	産科医院	20	3	0	0	23	20	5	3	21	49
5	助産所	2	0	0	0	2	1	0	0	1	2
6	愛育病院	11	7	0	1	19	10	6	9	13	38
計		67	27	3	1	98	73	19	29	55	176
%		68.3	27.6	3.1	1.0	100.0	41.5	10.8	16.5	31.3	100.0

ことを希望（3例）するものもあった。

ⓑ　しかも、指導に「もっと具体的に」「時間をかけて」ゆっくりと話してほしいものが大半を占めている。

④　指導にパンフレット利用の有無（第13表）

a）記入のあった141例のうち、パンフレット無しが68例（48.3%）、パンフレット有が59例（41.8%）であり、不明が14例（9.9%）にみられた。

b）施設別にみても、ほぼ同じ傾向がみられた。

c）パンフレットを利用しているものは大病院や産院に多く、個人開業の医院や病院ではパンフレットを利用するものが少ない。

⑤　新生児指導に対する母親の満足度（第14表）

愛育病院もふくめた184例の母親のうち、

a）満足したものは113例（61.4%）で不満は40例（21.7%）、不明が31例（16.9%）である。

b）不満の程度は愛育病院出産例、助産所、産院において著しく少い。最も不満度の高い施設群では、大病院出産例（(71例中23例（32.4%))であり、ついで個人病院（(14例中4例(28.6%))）、産科医院（(45例中11例(24.4%))）であった。

c）不満の理由は不明のものが多かった。

⑥　役に立った指導の内容（第15表）

答えのあった161例のうち役に立った指導は、入浴指導（21.1%）栄養指導（14.3%）生活全般（11.2%）健

第13表　指導の際にパンフレット配布されたか

		母親の答				施設別			
		パンフレットもらった	パンフレットもらわない	不明	計	パンフレットもらった	パンフレットもらわない	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	36	27	8	71	26	20	8	54
2	産院	8	0	0	8	2	0	0	2
3	個人病院	4	7	3	14	3	7	3	13
4	産科医院	10	32	3	45	9	31	3	43
5	助産所	1	2	0	3	1	2	0	3
6	愛育病院	—	—	—	—	—	—	—	—
計		59	68	14	141	41	60	14	115
%		41.8	48.3	9.9	100.0	35.7	52.2	12.1	100.0

第14表　指導の満足度

		満足	不満	不明	計	理由				
						実際に役立った	実際に役立たない	その他	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	38	23	10	71	30	1	0	7	38
2	産院	7	1	0	8	6	0	0	1	7
3	個人病院	7	4	3	14	5	0	0	2	7
4	産科医院	28	11	6	45	23	0	0	5	28
5	助産所	2	1	0	3	2	0	0	0	2
6	愛育病院	31	0	12	43	28	1	0	2	31
計		113	40	31	184	94	2	0	17	113
%		61.4	21.7	16.9	100.0	83.2	1.8	0.0	15.0	100.0

第15表　有益だった指導の内容

		入浴指導	栄養指導	生活全般	健康	その他	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	14	7	5	4	4	24	58
2	産院	2	2	2	0	1	1	8
3	個人病院	3	1	0	2	0	4	10
4	産科医院	7	5	5	3	2	17	39
5	助産所	0	0	1	0	0	1	2
6	愛育病院	8	8	5	6	5	12	44
計		34	23	18	15	12	59	161
%		21.1	14.3	11.2	9.3	7.5	36.6	100.0

康（9.3%）その他（7.5%）であったが、不明が36.6%もあった。

5）退院後の問題と解決法

① 退院後1～2か月間の不安

a）不安を感じたものは第16—1表の如く、207例中170（82.1%）にも上っていて、不安を感じなかったもの（16.9%）を大幅に上廻っていた。

b）不安を感じなかった理由としては、明記した43件のうち第2子以上の出産で慣れていたと答えたものが14件（32.6%）で最も多く、ついでこどもが健康だったからが9件（20.9%）であり、そのほかには祖母・知人など相談相手がいたから5件（11.6%）などがあり、入院中の指導がよかったからは2件(4.7%)にすぎなかった。

c）不安を残した事項では、日常の世話や栄養についてが多かったが、その他病気のことが多いようである。

d）新生児期の保健指導が退院後の不安解消に及ぼす

第16-1表　退院後1～2か月間の不安

		不安を感じた	不安を感じなかった	不明	計	不安を感じなかった理由							不安を感じた事柄			
						指導が良かった	産で慣れている第2子以上の出	相談相手があった祖母・知人など	子供が健康だった	その他	不明	計	栄養問題	日常の世話の問題	その他	計
1	国・公立、それに準ずる病院	59	15	1	75	0	5	3	4	3	2	17	20	27	35	82
2	産院	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	3	3	8	14
3	個人病院	19	2	1	22	0	1	1	0	1	0	3	4	5	14	23
4	産科医院	45	10	0	55	0	5	1	2	0	4	12	15	16	30	61
5	助産所	2	1	0	3	1	0	0	1	0	0	2	1	1	1	3
6	愛育病院	36	7	0	43	1	3	0	2	2	1	9	8	13	24	45
計		170	35	2	207	2	14	5	9	6	7	43	51	65	112	228
%		82.1	16.9	1.0	100.0	4.7	32.6	11.6	20.9	14.0	16.3	100.0	22.4	28.5	49.1	100.0

第16-2表　入院中の指導の有無が退院後の不安に与える影響

		全例			除愛育病院例		
		不安⊕	不安⊖	計	不安⊕	不安⊖	計
入院中の指導 ⊕	N	149	34	183	113	27	140
	%	81.4	18.6	100.0	80.7	19.3	100.0
入院中の指導 ⊖	N	21	1	22	21	0	21
	%	95.5	4.5	100.0	100.0	0.0	100.0
計	N	170	35	205	134	27	161
	%	82.9	17.1	100.0	83.2	16.8	100.0

影響（第16―2表）：入院中に保健指導をうけた例で退院後に不安を感じたものは183例中149例（81.4%）であり、入院中に指導をうけなかった群の不安率95.5%（22例中21例）を下廻っている。このことは愛育病院例を除いた統計でも同様の傾向を示している。

これらのことから入院中の保健指導は必要なことが証明された。

e）出生順位と不安との関係（第16―3表）

第1子の場合の方が第2子以降の児の場合よりも退院後に不安を感じる頻度が高くでた。即ち、退院後不安を感じた群では入院中の指導をうけた場合では、第2子以

第16-3表　出生順位と不安感の関係

		退院後不安を感じた群					退院後不安を感じなかった群				
		入院中の指導・有		入院中の指導・無		計	入院中の指導・有		入院中の指導・無		計
		第1子	第2子以降	第1子	第2子以降		第1子	第2子以降	第1子	第2子以降	
1	国・公立、それに準ずる病院	37	18	2	2	59	7	8	0	0	15
2	産院	5	3	0	1	9	0	0	0	0	0
3	個人病院	11	1	4	3	19	1	1	0	0	2
4	産科医院	26	10	8	1	45	3	6	0	1	10
5	助産所	1	1	0	0	2	1	0	0	0	1
6	愛育病院	24	12	0	0	36	4	3	0	0	7
計		104	45	14	7	170	16	18	0	1	35
%		61.2	26.5	8.2	4.1	100.0	45.7	51.4	0.0	2.9	100.0

降群が170例中45例（26.2%）であったのに比べて、第1子群では104例（61.2%）となり、約2.5倍の不安の感じ率がみられた。これらに対して、退院後不安を感じなかった群に於ては第2子以降群（有指導）の51.4%に比べて第1群は45.7%とほぼ同率であった。また入院中に指導をうけても退院後に不安を感じるものが多いことも判明した。

f）不安の解決法（第17表）

207例の答えは延262件に上る。最も多いのは、育児書をよんだ（89例34.0%）であり、ついで出産施設へ問いあわせた（63件24.0%）、肉親・姑などに相談して（55件21.0%）が多かった。退院時指導を思い出したり、（5.0%）母親学級の知識を応用した（4.2%）ものは案外に少いことも判明したのは興味あることである。

第17表　育児上の不安の解決方法

		出産施設へ問いあわせた	育児書を読んだ	退院時指導を思い浮べた	肉親・姑などと相談した	母親学級の知識を応用した	その他	不明	計
1	国・公立、それに準ずる病院	20	35	5	22	4	3	3	92
2	産院	3	6	1	3	2	1	1	17
3	個人病院	8	8	0	5	1	2	0	24
4	産科医院	13	27	2	14	3	9	3	71
5	助産所	0	1	0	1	0	1	0	3
6	愛育病院	19	12	5	10	1	4	4	55
	計	63	89	13	55	11	20	11	262
	%	24.0	34.0	5.0	21.0	4.2	7.6	4.2	100.0

② 保健婦の家庭訪問

a）家庭訪問とその指導内容（第18表—1）

ⓐ 207例のうち退院後家庭訪問をうけたものは、73例（35.3%）で訪問をうけなかったものは133例(64.2%)であり、1：2の割合である。

ⓑ 指導の内容：内容を明記したものは75例であったが、そのうちでは栄養指導が最も多く、ついで育児一般、健康指導の順であった。

b）家庭訪問指導の満足度（第18表—2）

ⓐ 家庭訪問をうけた73例につき、満足度をしらべた結果、32例（43.8%）と約半数が満足していて不満は17例（23.3%）と少なかった。

ⓑ 不満の内容は不親切、その他があげられているが訪問回数をふやしてほしいものも少数例にみられた。

第18表　保健所保健婦の家庭訪問

1）保健婦の家庭訪問と指導内容

	家庭訪問・有	家庭訪問・無	不明	計	家庭訪問の指導内容 育児一般	栄養指導	健康指導	家族計画	その他	不明	計
計	73	133	1	207	12	15	8	1	16	23	75
%	35.3	64.2	0.5	100.0	16.0	20.0	10.7	1.3	21.3	30.7	100.0

2）家庭訪問指導の満足度

	満足	不満	不明	計	不満足の内容 訪問回数をふやしてほしい	不親切	その他	不明	計
計	32	17	24	73	1	6	10	1	18
%	43.8	23.3	32.9	100.0	5.6	33.3	55.5	5.6	100.0

3）家庭訪問への希望（延）

	強力について行ってほし	家庭訪問はどちらでよい	家庭訪問はしてほしくない	その他	不明	計
計	78	62	10	8	51	209
%	37.3	29.7	4.8	3.8	24.4	100.0

4）保健所の場所の認知度

	知っている	知らない	不明	計
計	168	29	10	207
%	81.2	14.0	4.8	100.0

c）家庭訪問への希望（第18表—3）

強力に家庭訪問を行ってほしいものは209例中78例（37.3%）で最も多く、どちらでもよいと答えたものは62例（29.7%）である。家庭訪問はしてほしくないものも10例（4.8%）にみられたが、不明が51例（24.4%）

にみられた。

d）保健所の場所を知っているかとの質問には（第18表—4）207例中168例（81.2%）が知っていて、知らないものは29例（14.0%）にすぎなかった。

結　論

出産施設における新生児の保健指導の実態を知る目的で、昭和46年2月1日より3月末日までの間に愛育病院外来に健康相談のために来訪した2～3か月の乳児(207例、うち43例は愛育病院出生児）の母親につき、アンケート調査を行った。

出産した施設は次の6群に分類した。

1. 国公立及びそれに準ずる大病院　45
2. 産　院　2
3. 個人病院　18
4. 産科医院　52
5. 助産所　3
6. 愛育病院は別個に扱った。

1. 母乳の確立に及ぼす因子分析

入院中及び生後1か月の母乳確立%は、愛育病院が非常に高く（約60%）他の施設群では非常に低い（9～16%）。

この原因は、①愛育病院に於ては、授乳開始前にミルクの投与が少い（7%）なのに反し、他施設群では非常に高率（38～52%）なためである。②母乳の確立には母子同室、別室の差はあまり関係がみられなかった。③母乳優先指導をうけた群ではうけない群に比べ、母乳の確立の頻度は2倍以上である。（うけた群では37.0%、うけない群では14.1%）

2. 退院後の母親の不安を解消するのに役立つ新生児保健指導方式

1）新生児保健指導

① うけているものが86%にみられたが、うけていないものの出産施設は個人病院が最も高く（57.1%）ついで産科医院（22.2%）である。

② 指導の内容は、入浴、栄養、生活全般の順である

③ 指導は集団指導（58%）個別指導（32%）の順であり、ビデオテープなどによる指導が5%にみられた。

④ パンフレット使用は42%にみられたが、これは大病院や産院に多く、産科医院や個人病院で出産したものにはパンフレットを利用しないものが多い。

2）新生児指導と退院後の母親の満足度

① 退院後に不安を感じたものは82.1%と高率である。

② 第1子の出産例では第2子以降の出産例に比べて約2.5倍も不安を感じたものの数が多かった。

③ この不安を感じる頻度は新生児の保健指導をうけた群に少なかった。

④ 不安の解消法としては、育児書を読んだ（34%）ものが最も多く、ついで出産施設へ問い合わせた（24%）、肉親・姑などに相談した（21%）の順であった。

しかし、退院時指導や母親学級を応用して解消したものは各々5%、4%と少なかった。

3）保健婦の家庭訪問

① 退院後保健婦の家庭訪問をうけたものは、35%であり、指導内容は栄養指導、育児一般、健康指導の順であった。

② 家庭訪問をうけて満足したものは43.8%にみられたが、不満が23.3%にみられ、その理由は不親切及び訪問回数が少いなどであった。

③ 家庭訪問を希望するものは37.3%と最も多かったが、希望しないものが4.8%にみられた。

以上の結果から、母親の育児への不安を解消させ、母乳の確立を促進させるためには、新生児期の保健指導はより強化されるべきであり、それに必要な量的質的な医療技術者の配置及び器具、パンフレット類の充実と内容の検討が行なわれる必要があると結論する。

Researches for the Improvement of rearing New-born Infants

Jushichiroo Naitoo et al.

Chapter IV Influence of the Guidance Method of discharging New-born Babies from the Hospital on Mothers and Babies

Dept. 3 Tominosuke Matsushima
Yoshie Aoki

I) On the Decreasing Tendency of Breast Feeding and Bibliographical Study on Its Background

I have set forth the tendency that breast feeding is on the decrease in our country, adding the status of breast feeding in foreign countries. The merit of breast feeding has also been stated.

II) Investigation into the Actual Status of Health Guidance of New-born Babies in Maternity Institutions

Dividing the maternity institutions where 207 babies were born (and who were brought to the out-patient clinic of Aiiku Hospital for health guidance) into 6 groups, we studied whether the method of health guidance for new-born babies is uesful or not for establishing breast feeding and disolving mothers' anxieties about upbringing of their babies among these 6 groups.

1) The percentage of the establishment of breast feeding was low with the mothers who had given milk before they gave breast to their babies. This tendency was found overwhelmingly strong in the general practitioner group and also strong in the big hospital group.

2) It was with the case of the first child and when the mother had not received health guidance while she was staying in the hospital that she felt most anxious about baby-nursing after she left the hospital.

3) The order of the methods for disolving mothers' anxieties was : read books on rearing infants, make inquiries st maternity institutions, and ask for the advices of blood relations or mothers-in-law.

4) Home visits and guidances of public nurses were strongly demanded by mothers.